

先週の回答



よろしかったら、まずはじめに「呉下阿蒙（ごかあもう）」とは何ぞやを説明したいと存じます。

「呉」は中国の呉の国のこととさせていただきます。「阿蒙」は阿は親しみの語ですから、阿蒙は「蒙さん」となります。つまり呉の国にいたころの蒙さんという意味でございます。

ですから「柴下阿寅」と言いかえれば、柴又にいたころの寅さんとなります。

「ちやらちやら流れるお茶の水、粋な姐さん立ちシオンベン」「けっこー毛だらけネコ灰だらけ、ケツのまわりはクソだらけ」なんて声を張り上げているあの柴又は帝釈天の寅さんでございます。さらによろしかったら、もう少しご説

明いたしますと、呉の国の魯肅（ろしゆく）という人が、蒙さんに出会ったとき「昔はあなた（蒙さんのこと）は武芸だけ秀でた人だと思っていたが、現在では学識も高い人となった。かつて呉にいたときは別人のようですなあ」と感心したという故事から、進歩がない人や無学のままの人のことをたとえて「呉下阿蒙」とよぶようになったそうでございます。

ですから、今は賢くなったけど、呉の国にいたころはバカだった蒙さんを引き合いに出して、「いつまでも呉下阿蒙では困ります。しっかり勉強してください」、「お前がいつまでも呉下阿蒙のままでは思わなかった。情けない」とか、

「このまま呉下阿蒙でいるとノーミンも摩耗してしまうぞ」などと劣等生、落ちこぼれの代名詞に使われるのでございます。

ちなみに、頭が悪いがバカでない柴下の阿寅さんは、おいちゃん（叔父）におめーはどーしていつまでもそーバカなんだ、まるで呉下阿蒙じゃねーか」と言われて「それを言っちゃあ、おしまいよ」と旅に出るのでございます。

（寅さん映画を観たことのない方にはチンプンカンプンだと思います。ごめんなさい）



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。